

1 教養試験（行政「一般方式」）

No.	科目	出題内容	正解	正答率	講評
1	文章理解	内容把握	3	A	【文章理解】 昨年同様、内容把握2題、文章整序1題、空欄補充1題での計4題の出題となった。内容把握は選択肢の中にある注目すべき語が見つけられれば、本文のどの部分と肢が対応しているかが見つけやすく、解きやすい問題であった。文章整序は正答である肢4よりも肢1を選択した人が多かった。文章の流れとしては一見、肢1の方がスムーズであるが、Aの「上記のような外部の利害関係者」が直前の文章にあるはずであるという観点から肢4を選択したい。昨年同様、空欄補充は検討不要の空欄があり、空欄C・Dに注目できるかどうかのポイントであった。4問の中では、空欄補充が他に比べて難易度が高かった。
2		内容把握	5	A	
3		文章整序	4	C	
4		空欄補充	1	A	
5	英文理解	内容把握	5	C	【英文理解】 例年通り、内容把握4題の出題であり、エッセイや物語文を含む出題であった。No. 5は文章量こそ多くないが、紛らわしい選択肢があり、苦戦した受験生が多かったと思われる。東京都では珍しく、誤肢を選んだ人の割合が正答を選んだ人よりも多い問題であった。No.6とNo.7のエッセイは要求される語彙レベルが高くなく読みやすかった。No.8の物語文については、物語の大筋を追いかけるだけでなく、選択肢の中にある細かな表現について、それが本文で述べられているかどうかきちんと検討しなければ解けない問題であった。
6		内容把握	3	A	
7		内容把握	5	A	
8		内容把握	3	B	
9	判断推理／ 数的推理	集合算	3	A	【判断推理／数的推理】 判断推理1題と数的推理8題の計9題出題された。昨年に比べ判断推理の問題数は少なくなり、数的推理の問題数は多くなった。数的推理を多く出題する傾向である。数的推理は、集合算を含むものの集まりと数値に関する数量推論的な問題と確率の問題は例年どおり出題された。[No.13]では整数解の問題が出題されたが、こちらも過去問解きまくり①「数的推理・資料解釈」の問題19に似たような問題が出ていたので、本番で解くことができた受験者もいただろう。[No.14]の比の問題については、中学の理科の内容「質量＝体積×密度」を知らないといけない問題であった。[No.17]の記数法に関する問題は平易であった。全体的に、図形の計量も含め、数列・規則性や方程式など計算量が多かった昨年に比べ、ほとんどが平易な問題で難易度が下がった印象を受ける。判断推理は、[No.12]の1題のみであり、平易な対応関係の問題であった。
10		確率	4	A	
11		確率	3	A	
12		対応関係	1	A	
13		整数解	1	A	
14		比・割合	2	A	
15		平面図形の計量	2	A	
16		平面図形の計量	2	A	
17		記数法	5	B	
18	資料解釈	グラフ（実数）	4	A	【資料解釈】 資料解釈は例年通り4題出題された。問題を解くための計算量が増えた昨年に比べ、今年は解きやすい問題が増えた傾向にあった。その中でも、[No.20]は比較的計算が平易であった。[No.21]については、平均の性質を知っていれば、解きやすかった問題である。3か年について食品卸売業の食品ロス発生量をそれぞれ求め、条件値である平均値15との差を取り、その合計を調べることで、平均値と3か年の合計の平均の大小を求めることができた。数値の桁数が少なかった[No.19]も、合計値を求めることを含めても問題として平易であった。[No.18]については、桁数が多いため、合計値を求めることに苦戦した受験生が多かったと思われる。実際、正解の肢は、正解を得るために行う選択肢の検討順で後ろのほうだったので、辿り着くまでに時間を要したと思われる。以上より、すべての問題を取りに行くことはせず、このうち数題を確実に取りに行くほうが多くの受験者にとってよい選択だったと思われる。
19		グラフ（実数）	3	A	
20		グラフ（増減率）	5	A	
21		グラフ（実数・構成比）	5	A	
22	空間概念	平面図形の分割・構成	2	B	【空間概念】 空間概念は昨年より1題減って、3題出題された。難易度は昨年並みであるが、[No.22]の折り紙の問題は、過去問解きまくり「判断推理・図形」②の問題169にも類題があったが、折る順番を検討することは難しかったであろう。解き方としては、折り目として長い線から順に検討をしていき、折り目に対して左右の面に線対称の線が乗るような折り目を選んでいく。すると、真ん中のたての辺 → オ → ウ → イ → ア の順に折ればよいことがわかる。[No.24]はひし形の長いほうの対角線の長さが $\sqrt{3}a$ であること、軌跡を描きその長さを丁寧に計算する必要があった。全体的には昨年並みの標準的な問題が多かった印象を受けるが、軌跡の問題は昨年同様に計算と追跡で時間を要するので辛抱強く解いていくことがポイントであった。
23		位相	5	A	
24		軌跡	1	C	
25	人文科学	日本の生活文化	5	A	【人文科学】 歴史：日本史と世界史からそれぞれ1問と、例年通りの出題である。日本史は江戸幕府の政策、世界史は第一次世界大戦後とオーソドックスなテーマであり、本試験診断での正答率も高い。例年通りではあるが、都庁受験者はしっかりと教養も勉強していることがわかる。地理：資源エネルギーからの出題であった。東京都では資源エネルギーからの出題が多いことから、受験生の方はしっかり準備をしていたようだ。歴史よりも正答率が低い。産業革命とは何かなる動力革命であったのかは、基本であることから、肢1は切りたい。文化：日本の生活文化からの出題であった。東京都のNo.25は、勉強をして対策をするというよりも、一般常識的な問題が多いが、本年も同様の傾向であり、正答率が高いということは東京都の受験生のレベルの高さが伺える。さすがみなさん、優秀である。
26		江戸幕府の政策	3	A	
27		第一次世界大戦後	3	A	
28		世界の資源エネルギー	3	B	
29	社会科学	生存権	4	A	【社会科学】 社会科学は、例年どおり、法学、政治、経済から各1問ずつの出題である。法学からは生存権であるが、オーソドックスな問題といえる。政治からは裁判所制度であり、是非得点源としたい問題である。経済からは金融のしくみとはたらきであるが、いずれの選択肢も典型的かつ平易であり、基本レベルである。全問正解は十分可能である。
30		裁判所制度	4	B	
31		金融のしくみと働き	5	A	
32	自然科学	鉛直投げ上げ運動	3	C	【自然科学】 物理：No.32は、鉛直投げ上げ運動の計算問題であり、計算問題は2年連続となった。物体の運動からは、2019年（技術）、2010年は自由落下からの出題は見られたが、鉛直投げ上げ運動の出題は初めてであったが、基本公式を理解できていれば容易な計算ではあった。化学：No.33は、化学の法則について問われたが、耳慣れない法則もあったため、取り組みにくかったかもしれない。問われ方は、2019年（「解きまくり！」問題118）と同様で、法則名と文章で書かれた内容の正誤であったから、数式だけではなく、文章での法則の内容理解も大切である。生物：No.34は、酵素という典型的な出題であったが、細かいところの正誤判定で迷ったようである。選択肢4は、2019年、2015年（I類A）で問われており、やはり過去問演習は重要である。地学：No.35は、火山活動と災害について問われた。火山については、2020年、2012年、2008年と出題があったが、災害との関連が意識された内容は、近年の傾向といえる。
33		化学の法則	1	C	
34		酵素	5	C	
35		火山活動と災害	5	A	
36	社会事情	令和4年版 少子化社会対策白書	3	B	【社会事情】 社会事情は、例年どおり5問の出題で、少子化社会対策白書、物価高克服・経済再生実現のための総合経済対策、法人寄附不当勧誘防止法、改正銃刀法、国際情勢となっている。白書からの出題は、少子化社会対策白書であり、社会的に注目されている分野なので、是非正解しておきたい。物価高克服・経済再生実現のための総合経済対策は、東京都の出題としてはオーソドックスな問題といえる。法人寄附不当勧誘防止法は、新聞記事等で大きく取り上げられている事柄であり、比較的平易な問題といえる。改正銃刀法は、一般常識でも解ける平易な問題である是非正解しておきたい。国際情勢は、注目度の高い最近の出来事ばかりであり、社会科学の知識でも選択肢を絞り込める基本的な問題である。いずれも基本レベルから標準レベルの問題なので5問中4問は正解しておきたい。
37		物価高克服・経済再生実現のための総合経済対策	3	A	
38		法人等による寄附の不当な勧誘の防止等に関する法律	2	A	
39		銃刀法刀剣類所持等取締法の一部を改正する法律	2	B	
40		国際情勢	3	B	

※ 正答率（A：60%以上、B：40%以上60%未満、C：40%未満）は、LEC公務員試験 受験生応援企画『本試験無料成績診断』のデータ（5/9 14:00時点）に基づいて算出しています。本成績診断のご利用方法等の詳細は、LEC公務員Webサイトの専用ページ（<https://www.lec-jp.com/koumuin/juken/seiseki/>）にてご案内しています。

2 教養試験（行政「新方式」）

No.	科目	出題内容	正解	正答率	講評	
1	文章理解	内容把握	3	A	<p>【文章理解】 昨年同様、本年は一般方式の4題に加えて空欄補充が1題出題された。昨年は難易度が高かったが、本年は大きく難易度が下がっている。ただし、選択肢4を選んだ受験生も多く、問題文からのヒントを抽出するよりも、自身の先入観の方が勝ってしまったのではない。</p> <p>【英理解】 物語の出典で、内容把握が1問一般方式よりも多く出題されている。本文には読みにくい文が散見されるが、選択肢と対応している部分を見つけることは難しくなく、難易度は高くなかった。しかし、肢が4と5で分かれたのは、最後まで集中して読まずに選択肢を選んだためではないか。文章理解は先を急ぎがちであるが、確実に正答できる場所を落とさないことが大切になる。</p>	
2		内容把握	5	B		
3		文章整序	4	C		
4		空欄補充	1	A		
5		空欄補充	3	B		
6	英文理解	内容把握	5	C	<p>【判断推理/数的推理】 今年半判断推理2題と数的推理8題の合計10題出題された。数的推理を多く出題するという東京都庁の傾向がそのまま出たように思われる。</p> <p>数的推理については次のとおりである。集合算など、ものの集まりと数値に関する数量推理的な問題と確率の問題は例年どおり出題された。[No.16]では整数解の問題が出題されたが、こちらも過去問解きまくり①「数的推理・資料解釈編」の問題19に似たような問題が出ていたので、本番で解くことができた受験者もいたであろう。[No.17]の比の問題については、中学1年生の理科の内容「質量=体積×密度」を知らないといけない問題であったため、この式を知らなかった受験者は困惑したかもしれない。[No.20]は平易な記数法に関する問題であった。全体的に、図形の計量も含め、数列・規則性や方程式など計算量が多かった昨年に比べ、今年はほとんどが平易な問題で難易度が下がった印象を受ける。</p>	
7		内容把握	4	B		
8		内容把握	3	A		
9		内容把握	5	B		
10		内容把握	3	C		
11		判断推理/数的推理	集合算	3		A
12			位置関係	3		B
13			確率	4		B
14			確率	3		C
15			対応関係	1		C
16	整数解		1	B		
17	比・割合		2	B		
18	平面図形の計量		2	C		
19	平面図形の計量		2	B		
20	記数法		5	C		
21	資料解釈	グラフ(実数)	4	A	<p>【空間概念】 空間概念は例年通り5題出題された。難易度は昨年並みであるが、[No.26]の折り紙の問題は、過去問解きまくり②「判断推理・図形」の問題169にも類題があったが、折る順番を検討することは難しかったであろう。解き方としては、折り目として長い線から順に検討をしていき、折り目に対して左右の面に線対称の線が乗るような折り目を選んでいく。すると、真ん中のたての辺→オ→ウ→イ→アの順に折ればよいことがわかる。[No.29]は、ひし形の長いほうの対角線の長さが$\sqrt{3}a$であること、軌跡を描きその長さを丁寧に計算する必要があり、時間を要した問題であった。[No.30]は、中点連結定理からQRの描く図形は長方形になることが分かれば、それほど時間をかけずに解ける問題であった。全体的には昨年並みの標準的な問題が多かった印象を受けるが、軌跡の問題は昨年同様計算と追跡で時間を要するので辛抱強く解いていくことがポイントであった。</p>	
22		グラフ(実数)	3	B		
23		グラフ(増減率)	5	A		
24		グラフ(実数・構成比)	5	B		
25		表(実数)・グラフ(増減率)	5	B		
26	空間概念	平面図形の分割・構成	2	C	<p>【人文科学】 新方式は例年通り、世界史からの出題であった。過去問をやっていたら確実に正答できる問題であること、頻出の分野であることから、絶対に落とせない問題である。</p> <p>【社会科学】 社会科学は、例年どおり1問である。経済からの出題は4年連続であるが、容易に選択肢を絞り込める平易な問題なので、必ず正解しておきたい。</p> <p>【自然科学】 従来から、2科目の出題が続いていたが、本年度は、2014年、昨年に引き続き、化学・地学の組合せの出題であった。なお、2013年は物理・生物、2015年～2017年、2019年は物理・地学、2018年、2020年、2021年は化学・生物からの出題であった。化学：従来は、一般方式と共通の出題であったが、本年は、異なる問題の出題であった。No.33は、コロイドについて問われ、2003年以来の出題であった。コロイドの基本的用語の理解が問われたが、やや学習が手薄になりがちな分野であったから、どれくらい学習に取り組んでいたかで正答率が分かれたといえる。地学：No.34は、火山活動と災害について問われた。火山については、2020年、2012年、2008年と出題があったが、災害との関連が意識された内容は、近年の傾向といえる。</p>	
27		位相	5	B		
28		展開図	2	B		
29		軌跡	1	C		
30	軌跡	3	C			
31	人文科学	第一次世界大戦後	3	B	<p>【社会事情】 社会事情は昨年と同じく6問の出題で、少子化社会対策白書、物価高克服・経済再生実現のための総合経済対策、法人寄附不当勧誘防止法、改正銃刀法、東京都パートナーシップ宣誓制度、国際情勢である。少子化社会対策白書は、あらかじめ準備ができていたのではないだろうか。物価高克服・経済再生実現のための総合経済対策は、東京都の出題としてはオーソドックスな問題といえる。法人寄附不当勧誘防止法は、社会的に注目されていたこともあり、比較的平易な問題である。改正銃刀法は、一般常識でも正解肢が絞り込める容易な問題である。東京都パートナーシップ宣誓制度は、東京都の志望者なら正解を見出すことは難しくないとはいえる。国際情勢は選択肢の中には社会科学の知識でも選択肢を絞り込めるものもあり、得点源としたい。いずれも基本レベルから標準レベルの問題なので6問中5問は正解しておきたい。</p>	
32	社会科学	金融のしくみと働き	5	B		
33	自然科学	コロイド	5	C		
34		火山活動と災害	5	B		
35	社会事情	令和4年版 少子化社会対策白書	3	C		
36		物価高克服・経済再生実現のための総合経済対策	3	B		
37		法人等による寄附の不当な勧誘の防止等に関する法律	2	B		
38		銃刀法(剣道所持等取捕法の一部を改正する法律)	2	C		
39		東京都パートナーシップ宣誓制度	1	B		
40		国際情勢	3	B		

※ 正答率(A:60%以上, B:40%以上60%未満, C:40%未満)は、LEC公務員試験 受験生応援企画『本試験無料成績診断』のデータ(5/9 14:00時点)に基づいて算出しています。本成績診断のご利用方法等の詳細は、LEC公務員Webサイトの専用ページ(<https://www.lec-jp.com/koumuin/juken/seiseki/>)にてご案内しています。



KL22716